

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893800029		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム やまゆり	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-0414 茨城県稲敷郡美浦村信太2644-3		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0893800029-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年2月17日	評価機関 決 済 日	平成28年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・今までの生活状況が損なわれぬよう家庭的な環境雰囲気を提供しています。
- ・笑顔で会話するよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所駐車場の片隅には畑があり、職員と利用者は一緒に季節の野菜を栽培・収穫しており、利用者の楽しみの一つとなっている。

事業所ではできるだけ利用者の外出の機会を増やすため、食材の買い出しには必ず利用者を交代で誘ったり、ドライブや外食、初詣に行くなど、利用者の意向にそった外出支援をしている。

利用者は自由に台所に入ったりして水を飲んだり、昼食の準備や洗い物等を行っており、職員は利用者の行為を抑制することなく自由な生活を支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で理念を唱和している。また職員のネームプレートの裏には理念を付けて実施に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念のほかに、より具体的な目標を年度毎に定めて、職員の休憩室に掲示している。 管理者は朝の申し送り時に理念を唱和したり、名札の裏に記載して、職員がいつでも理念を再確認できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地区の納涼祭等に参加するなどして地域との交流を深めるよう努めている。	美浦トレーニングセンターの納涼祭に、利用者が職員と一緒に参加したり、毎月傾聴ボランティアやハーモニカ演奏など、行事毎に交流しているが、日常的に地域住民と交流するまでには至っていない。	地区の清掃活動などに参加したり、散歩や買い物に出かけて地域住民と挨拶を交わすなど、日常的に近隣住民と交流できるよう取り組むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで地域の方に認知症の理解、支援をしてもらえるよう説明し、協力を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等を職員で話し合いを行い取り入れるようにしている。	運営推進会議は家族等の代表や役場職員、民生委員、区長が参加して2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や行事内容、利用者の状況等について報告している。 前回の外部評価結果を受け、玄関の施錠について職員会議と運営推進会議で話し合った結果、施錠をする代わりに、音が出る接触型感知センサーを取り付けて人の出入りを自由にするなど、課題の改善に向けた取り組みを行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接行政に足を運んで顔を出すよう努めている。行政との関わりを密にするよう取り組んでいる。	運営推進会議に必ず役場担当者が参加しており、情報交換を行っているほか、利用者の要介護更新申請時などには、役場に足を運んで担当者に利用者の状況等を報告したり、役場からの講習会等の案内には、できるだけ職員が参加して協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのカンファレンスを行って拘束しないケアについて共有している。問題、疑問については随時カンファレンスを行い意見交換をしている。	事業所では身体拘束排除に向けてマニュアルを整備するとともに、定期的に内部研修を行って身体拘束に対する理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には虐待に関する資料の確認と勉強会等を行って虐待防止についての意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には資料に目を通してもらうようにしている。対象となる利用者が入居するときは行政の担当者に相談し対応できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にも説明を行い不明な点がないか確認を取っている。契約及び解除をする際に利用者や家族に十分な説明を行って理解してもらえよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、要望を聞いたり利用者の状況を伝えるようにしている。「意見箱」の設置もしている。	事業所では年2回家族会を開催し、家族等からの意見や要望を聴取するほか、面会時には必ず利用者の状況等を報告しながら和やかな雰囲気の中で、さりげなく意見を汲みあげるように努めている。 衣類の間違いや清掃に関する家族等の要望を受け、毎週日曜日に衣類のチェックをしたり、清掃回数を朝夕2回に増やすなど、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見、提案等が出た場合はカンファレンスで話し合いを行っている。	管理者は月1回の職員会議や朝夕の申し送り時に、職員から直接意見や要望を聞いている。 トイレのドアを開放する人がいて、ホールから見えてしまうという職員の指摘等を受け、出入り口にカーテンを取り付けるなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務の届書（勤務変更、残業）の確認、提出をしている。向上心を持てるようユニットごとに目標を立て、それを実施できるように心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会等を行っているが、外部研修は少なくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の事業所との交流や地域包括支援センター主催で行われる研修にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを共感、理解すること、要望、不安なことに対して安心してもらえるようにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と面談を行い、家族の思いや要望を聞きだし、対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とよく話し合い他の介護保険サービス等の説明も行い、本人と家族が必要であるサービスを利用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事、職員と共に出来る事を意欲的に取り組めるよう支援し、共に過ごし支え合う関係を築けるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、連絡・報告を行い家族と協力し合えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で行きたいところがあるときは職員が付添い外出するようにしている。	家族等や知人の協力のもと、馴染みの店での外食や理美容、以前友人とよく通ったカラオケハウスに、友人と待ち合わせをして職員と一緒に出かけるなど、その人らしい生活が継続できるよう支援している。 職員は知人等の来訪時にはお茶を出して再来訪を促し、馴染みの人や場所の関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう利用者同士の相性なども把握して座席の配置も調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時及び終了後も家族からの相談等にも応じるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常的なコミュニケーションから意向や希望を聞き、また職員からの情報を基に状態変化等を把握できるようにしている。	意思表示が困難な利用者には、ちょっとした仕草や表情から思いの把握に努めている。 前回の外部評価結果を受け、「ケース記録とは別に利用者の情報を書き込むノートを作成する」という具体的な目標を掲げたが、新たに知り得た利用者の情報は、朝夕の申し送り時に口頭で伝えるのみで、記録に残すまでには至っていない。	ケアサービスの向上につながるためにも、新たに知り得た情報は、他の情報に埋もれないように記載し、利用者一人ひとりの思いや意向を全職員で共有していくことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴、生活習慣などの聞き本人に合った生活環境、サービスを提供できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の状態報告や利用者の毎日の状態を観察し記録に残して職員が利用者の現状を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れて介護計画の作成をしている。状態変化に合わせて家族にも相談し介護計画の見直しを行っている。	介護計画は利用者の意向や家族等の要望を取り入れ、利用者毎に担当職員を決めて毎月モニタリングを行い、計画作成担当者が原案を作っている。 毎月の全体会議で報告して職員の同意を得たのち、家族等に説明して同意を得ている。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月とし、利用者の状態等の変化に応じて随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケアの経過をケース記録へ個別に記録している。情報を共有出来るよう申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで出来ることについては個別の要望等にも対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などの参加や地域のボランティアにも支援してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけの医療機関の確認をして本人、家族の希望をできるだけ受け入れられるようにしている。	協力医療機関による定期的な訪問診療や、週2回（月・木）看護師による健康チェックを行い、利用者毎に記録を残しているほか、必要に応じた医療機関の受診を支援している。 病院受診に職員が同行した場合は、必ず電話にて家族等に受診の結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関や訪問看護師に相談しながら利用者の健康管理を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族から入院中の状態を確認と、退院に向けての話し合いを行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合い、事業所で出来ることの説明をしている。	契約時に重要事項説明書で家族等に看取りケアについて説明し、書面で同意を得ている。 事業所に自動体外式除細動器を設置するとともに、職員研修を実施して重度化した利用者に対し、適切なケアができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が迅速に行えるよう連絡網を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署にも協力をお願いして避難訓練と消防訓練を行っている。	夜間を含めた避難訓練を年2回実施しているほか、消防署や地元の消防団とは有事に備えて協力関係を築いているが、地域住民との連携や協同での避難訓練を実施するまでには至っていない。 事業所では利用者1日分の缶詰や米、懐中電灯、毛布等の備蓄は行っているが、賞味期限などを記載して管理するまでに至っておらず、それ以外の備蓄品は車で15分程離れた本部で保管している。	地域住民と合同の避難訓練や災害時における連携体制を築くことを期待する。 備蓄品は賞味期限も記載した一覧表を作成して管理することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の「人間の尊厳を守る」「プライバシーの尊厳のもと、利用者の自尊心を傷つけない対応を心掛けている。	個人情報に留意して、面会票は利用者毎にカード式にするほか、居室の名前の掲示についても契約時に管理者が家族等に説明し、同意を得ている。 契約書や重要事項説明書等個人情報に関する書類は、事務室の施錠できるロッカーで一元的に管理し、個人情報の漏洩に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で希望や好みなどに耳を傾けるようにしている。入浴時や外出時なども自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等、ある程度の日課は決まっているが利用者一人ひとりのペースに合わせた生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などはなるべく自分で選んでもらうようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳等は職員が行っている。	利用者はできる範囲で、職員と一緒に食事の準備や配膳、下膳、洗い物などを担っている。 利用者の健康状態等に応じて、きざみ食やペースト食のほか、代替食を提供するなど、できるだけ利用者の嗜好に合わせた献立となっている。 事業所で採れた旬の野菜を食材に取り入れ、季節感を感じる献立やおやつ作りを行っており、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認を毎食行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、介助を行い口腔状態の把握に努めている。入歯の消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のチェック表とケース記録を活用して排泄パターンを把握して、排泄の失敗を減らすよう努めている。	日中は排泄チェック表をもとに、利用者の排泄パターンを把握し、利用者の仕草に留意しながらタイミングを見計らって声かけやトイレ誘導を行っている。 夜間は利用者の状態や状況に応じて、室内でポータブルトイレを使用するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	連携医療機関、訪問看護師に連絡・相談をして適切なしている。食事のバランスや体操など個々に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し、それに基づいて入浴を行っているが、本人の希望や体調に合わせて調整をしている。	座位保持が困難な利用者も入浴ができるよう、機械浴槽を設置するとともに、個人浴槽は1つなので、月・水・金は男性、火・木・土は女性と曜日を決めて入浴しているが、曜日に関係なく利用者が希望する時は、できるだけ入浴ができるよう柔軟に対応している。 入浴を拒む利用者には、時間や声かけする職員を替えたり、足浴や入浴回数を減らすなど、利用者の意向にそった入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換、布団干しなど寝具を清潔に保ち、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と服薬のチェックを行っている。副作用については連携医療機関に確認、相談をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの畑で野菜を栽培しており、実りの成長を外に出た時などに確認し、収穫の際には利用者と共に行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩など外出支援を行っている。家族との外出もいつでもできるようにしている。	食材の買い出しには、必ず交代で利用者と一緒に出かけている。 法人系列の事業所から車いす対応の公用車を借りて、大洗水族館や成田ゆめ牧場、イチゴ狩りなど、普段行けないような場所に出かけ、外出や買い物を楽しんでいる。 外出が困難な利用者に対しても、できるだけ室内に閉じこもらないように、駐車場での流しそうめんや焼き芋など、気分転換や外気浴を楽しむ支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭はホームで管理している。買い物などに出かけたときは自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も希望があれば使用してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝ホールとトイレの清掃を行い清潔で気持ち良く過ごせるようにしている。照明も調整し、居心地の良い空間作りをしている。	台所から双方のユニットが見渡せるような構造となっており、長い廊下は歩行訓練のスペースになっている。 天窓からは十分な彩光が射し、室内は明るい空間となっている。 ホールには食卓テーブルのほか、テレビやソファ、加湿器やパチンコ台を配置し、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮した空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにあるソファや外にあるベンチなど居心地の良い居場所の確保をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持参してもらい、違和感なく自宅のように生活してもらえるようにしている。	居室にはエアコンや昇降式ベッド、箆笥、カーテンが備え付けられている。 事業所では持ち込み制限はしておらず、冷蔵庫やステレオ、電気ポットやアイロンなどを自由に持ち込んだり、壁に昔の写真や制作物などを掲示しているほか、冷蔵庫には好みのドレッシングや食べ物を持ち込むなど、自宅の延長のような状態となっており、利用者が居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前や花のプレートを付け自分の居室が分りやすいようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが ○ 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム やまゆり

作成日 平成28年6月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常的に近隣住民と交流する機会が乏しい	月に1度、傾聴ボランティアの方が来訪しているがこれ以外に日常的に近隣住民と交流する機会をつくる	運営推進会議に出席下さる方を増やせるよう近隣の商店などに呼びかける。出席者の方より地域の情報を収集し清掃活動や行事などに参加する。	6ヶ月
2	23	利用者のちょっとした言動から思いや意向が汲み取れることがあるが、埋もれてしまうこともある	利用者一人ひとりの思いや意向は、速やかに全職員で共有できるようにする	期間を区切って朝の申し送り時に利用者の思いや意向について話し合う時間を設け、申し送りノートに記載し共有していく。	2ヶ月
3	35	防災災害時に備え、地域との協力体制を築く	地域住民との連携を図り協力体制を強化する	運営推進会議に出席下さる方を増やせるよう呼びかける。避難訓練への参加を呼びかける。備蓄品の管理の仕方を検討する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。